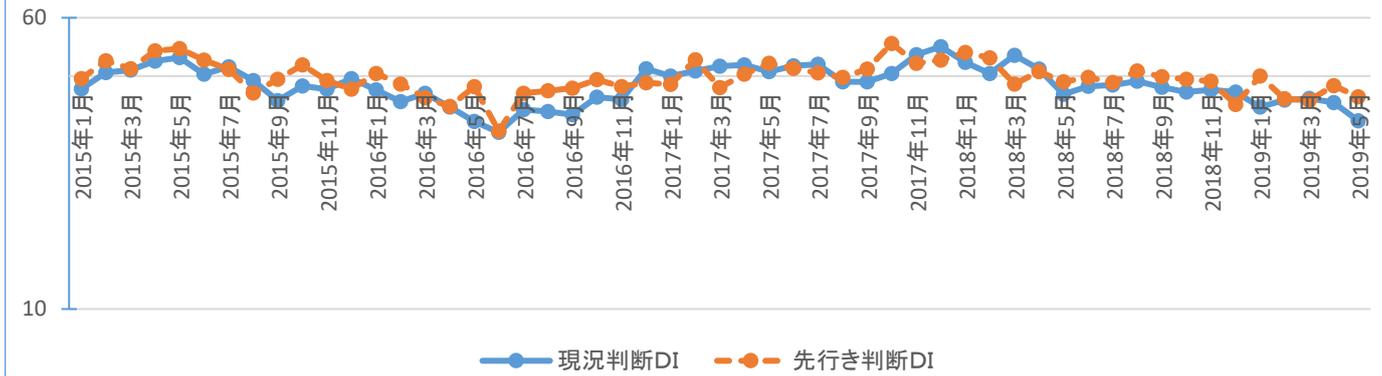


東海地域 現状・先行きDIの推移



◆東海地方 2019年5月 景気判断理由 一部抜粋

	分野	判断	判断の理由、追加説明及び具体的状況の説明、回答者属性
現状	家計動向関連	やや良	《販売量の動き》店内手作り弁当の売上が伸びてきたことと、急に暑くなり、アイスクリームやドリンクの販売量が増えたことが好調の要因と思われる。【コンビニ（店員）】
		不変	《単価の動き》10連休のゴールデンウィーク明けということもあり、金を使わない傾向がうかがえる。安物買いが増え、ぜいたく品の購買率は下がっている。客単価もダウンしている。【スーパー（店長）】
		やや悪	《販売量の動き》10連休の影響かは分からないが、連休明けから客足が伸びず、それに伴って販売量も上がらない。【乗用車販売店（営業担当）】
	企業動向関連	やや良	《受注量や販売量の動き》行政、民間共、引き合い、問合せや見積依頼が増えた月だった。消費税の引上げを前に、株主総会を終えて次年度事業を見越した投資を検討する客もあった。【通信業（法人営業担当）】
		不変	《受注量や販売量の動き》販売量は減少しており、引き続き良くない状況が続いている。【金属製品製造業（経営者）】
		やや悪	《受注量や販売量の動き》前年同月に比べ輸送物量が落ちている。大型連休後は反動で一時的に輸送物量が増加したが、その後は前年をやや下回る状況である。【輸送業（役員）】
雇用関連	やや良	なし	
	不変	《採用者数の動き》求人、求職件数共に横ばいである。採用を抑制する企業が増える一方で、人材不足により新たに採用する企業も増加傾向にある。【人材派遣会社（営業担当）】	
	やや悪	《採用者数の動き》新規求職者は引き続き減少傾向にあるが、4月以降は新規求人数も減少しており、これに伴い就職件数も減少傾向にある。【職業安定所（所長）】	
先行き	分野	判断	先行きに対する判断理由、回答者属性
	家計動向関連	やや良	規制緩和も進まず、夏のボーナスも横ばい、政治も経済もよく分からない状況であるが、猛暑だけは確実さを増し、関連商品のニーズ増大と新たな商品の創出で、国内の景気に限っては良くなると思われる。【コンビニ（企画担当）】
		不変	現状は悪くない状態で今後もその状態が続くと考えている。消費税の引上げがどう影響するかは分からない。駆け込み需要は余りないと思われる。【一般小売店【土産】（経営者）】
		やや悪	地政学的な要因と将来的な不安要素などで、ポジティブよりもネガティブな心理がますます働いていく感じを受ける。【その他飲食【仕出し】（経営者）】
	企業動向関連	やや良	特に建築業はバブルのような状況が続いているということで、やや良くなると見込むが、業種によっては比較的ばらつきがある。【金融業（従業員）】
		不変	消費税の引上げを控え、消費の動向にも明るい材料は見当たらない。【食品製造業（経営企画担当）】
		やや悪	消費税引上げ前の駆け込み需要はまだみられないが、商品等の値上げが目立ってきている。消費者の財布のひもは固くなってきている。【会計事務所（職員）】
	雇用関連	やや良	各社で新入社員研修などが終わり今年度の人員計画が変動し始める時期と推察している。今後は中途採用や派遣利用などを視野に増員を見込み、景気はやや良くなると期待している。【人材派遣会社（営業担当）】
		不変	米中貿易摩擦他、外部要因で国内市場に停滞感が残る。不透明感から、景気が上向きとなる材料が乏しい。【求人情報製作会社（営業）】
やや悪		転職希望者の動向は堅調に推移しているが、企業の採用基準の高まりなども含めて採用者数の減少が想定される。【民間職業紹介機関（営業担当）】	